

PTA特別講演会「コミュニケーションのヒント」を開催しました。

10月4日(火)、作家・演出家 鴻上尚史氏による、全校生徒対象の特別講演会が開かれました。鴻上氏は、舞台公演の他にも、映画監督、小説家、エッセイスト、ラジオ・パーソナリティ、テレビの司会者、などとしても幅広く活動されている方です。講演会では、コミュニケーションを上達するためにはどうしたらいいのか。最近話題の「エンパシー（相手の立場に立てる能力）」の育て方を含めて、よりよいコミュニケーションの秘訣を話していただきました。生徒を巻き込んだ生徒参加型の講演で、生徒も積極的に発言するなど、大変印象深い講演会になりました。

以下は、生徒の感想です。

「生徒の目線に立ってユーモアを交えて話していただけたので、とても楽しみながら講演を受けることができました。世間や集団我などについての話は、身に覚えのあることも多くはっとさせられました。そういった身内の文化、同調圧力の文化は、日本に住んでいて意識する部分であり、住んでいるからこそ無意識に従ってしまっている悪い部分でもあるなと感じました」

「日本の特徴がよく分かりました。世間と社会の違いなんてないと思っていたけど、違いがあってしかも他の国に世間なんてないと知って驚きました。同調社会が強い日本の中でもちゃんと意見が言えて、でも様々な人のそれぞれの事情も考慮して生活出来る人になりたいです」

「“世間”と“社会”とで分けて考えることができるほど、と思っし、日本人特有の他人と違うことを恥ずかしく思う“恥の文化”ゆえに同調圧力も生まれるのかなあと考えながら楽しく講演を聞くことが出来ました！みんなに問いかける際も、それぞれの意見に耳を傾け、それに対して聞いている側も楽しめるコメントを返され、誰も否定することなく新しい考え方に気づかせてくれる話し方が心地よかったです！この時期にこのお話を聞いて良かったです。empathyの気持ちを養って生きていけるようにしたいです」

「作品を作る上で、沢山のことを見て、考えることで自分の引き出しを増やし、自分の『面白い』にもっと説得力を持たせることはとても大切なことだと感じました」

